特別展
Special Exhibition

源氏物語の絵画

Paintings of *the Tale of Genji* through Works Attributed to Tosa Mitsunobu

―伝土佐光信「源氏系図」をめぐって

会場　中之島香雪美術館
（中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階）

開館期間　2021年1月30日(土)～3月14日(日)

休館日　月曜日

開館時間　午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

主催　公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

出品リスト

◎重要文化財　○重要美術品

会期中展示替えがあります。
前期：1月30日～2月21日　後期：2月23日～3月14日
Ⅰ期：1月30日～2月14日　Ⅱ期：2月16日～2月28日　Ⅲ期：3月2日～3月14日

事情により一部作品が展示されない場合があります。

No.	指定	作品名	作者	員数	材質・技法	制作年代	所蔵	展示期間
一　源氏物語								
1		紫式部観月図	土佐光起（1617-91）	一幅	絹本着色	江戸時代 17世紀	滋賀・石山寺	
2		源氏物語　附秋草蒔絵箪笥		五十四冊 一合	紙本墨書 表紙 紺紙金箔・金泥ほか	江戸時代 17世紀	鶴見大学図書館	
3		源氏物語		五十四冊	紙本墨書 表紙 紺紙金銀箔・泥ほか	江戸時代 17世紀	香雪美術館	
二　源氏系図をめぐって								
4		源氏系図	表紙 伝土佐光信（1434？-1525？）	一帖	紙本墨書 表紙 紙本着色	室町時代 16世紀	香雪美術館	
5		源氏古系図　安養尼本		一帖	紙本墨書	江戸時代 17世紀	鶴見大学図書館	
6		源氏物語冊子表紙摸本	住吉具慶（1631-1705）	一巻・四十一図	紙本墨画 一部淡彩	江戸時代 延宝3年(1675)	東京国立博物館	前期：御法、篝火、関屋、野分、手習 後期：夢浮橋、夢浮橋、手習、薄雲
7		源氏物語表紙絵		一幅	紙本着色	桃山時代 17世紀	香雪美術館	
8		源氏物語　蓬生・胡蝶・総角		三冊	紙本墨書 表紙 紙本着色	室町時代 16世紀	鶴見大学図書館	
9		扇面画帖（源氏物語ほか）		二帖・七十二面	紙本着色	室町時代 15-16世紀	九州国立博物館	前期：上（見返、梅枝、紅梅、空蟬）下（末摘花、帚木、一ノ谷、唐崎） 後期：上（浮舟、浜松図、朝顔、初音）下（紅葉賀、末摘花、花宴、垣に夏椿）
10		土佐光信像（土佐派絵画資料）		一枚	紙本墨画	江戸時代 18世紀	京都市立芸術大学 芸術資料館	
11		硯破草紙絵巻		一巻	紙本着色	室町時代 明応4年(1495)	細見美術館	前・後期で巻替
12		地蔵堂草紙絵巻		一巻	紙本着色	室町時代 15世紀	個人蔵	前・後期で巻替
13		三条西実隆像紙形	土佐光信（1434?-1525?）	一枚	紙本墨画	室町時代 文亀元年(1501)	東京大学 史料編纂所	
14	◎	実隆公記　文亀元年十月	三条西実隆（1455-1537）	一巻	紙本墨書	室町時代 文亀元年(1501)	東京大学 史料編纂所	後期
15	◎	石山寺縁起絵巻　巻四	詞 三条西実隆（1455-1537）	一巻（七巻のうち）	紙本着色	室町時代 明応6年(1497)	滋賀・石山寺	前・後期で巻替
16	◎	実隆公記　明応六年四月～八月	三条西実隆（1455-1537）	一巻	紙本墨書	室町時代 明応6年(1497)	東京大学 史料編纂所	後期

No.	指定	作品名	作者	員数	材質・技法	制作年代	所蔵	展示期間
三　源氏絵の世界								
17		奈良絵本源氏物語　賢木・明石・絵合		三冊	紙本墨書 絵 紙本着色	江戸時代 17世紀	［賢木・明石］鶴見大学図書館 ［絵合］個人蔵	
18		源氏物語画帖　上巻		一帖・二十七図（二帖・五十四図のうち）	紙本着色	室町時代 16世紀	京都国立博物館	Ⅰ期：桐壺、帚木、空蟬、夕顔、若紫、末摘花、紅葉賀 Ⅱ期：花宴、葵、賢木、花散里、須磨、明石 Ⅲ期：澪標、蓬生、関屋、絵合、松風、薄雲
19-1		源氏物語図扇面　空蟬・梅枝・蓬生・絵合		四面（十二面のうち）	紙本着色	室町時代 16世紀	東京国立博物館	前期：空蟬、梅枝 後期：蓬生、絵合
19-2		源氏物語図扇面　早蕨・梅枝・須磨	石山師香（1669-1734）	四面（十二面のうち）	紙本着色	江戸時代 18世紀	東京国立博物館	前期：梅枝、須磨 後期：古筆了仲筆極書、早蕨
20	◎	源氏物語手鑑	絵 土佐光吉（1539-1613） 詞 烏丸光広（1579-1638）ほか	六場面（八十場面のうち）	絵 紙本着色 詞 紙本墨書	桃山時代 慶長17年(1612)	和泉市久保惣記念美術館	Ⅰ期：絵合、夕霧一 Ⅱ期：帚木二、末摘花一 Ⅲ期：玉鬘一、玉鬘二
21	◎	源氏物語画帖　乙帖	絵 土佐光吉（1539-1613） 詞 後陽成天皇（1571-1617）ほか	一帖・十三場面（四帖・五十四場面のうち）	絵 紙本着色 詞 紙本墨書	桃山時代 17世紀	京都国立博物館	前期：玉鬘、初音、胡蝶 後期：蓬生、関屋、絵合
22		源氏物語画帖下絵（土佐派絵画資料）		二枚	紙本墨画 一部淡彩	江戸時代 17世紀	京都市立芸術大学 芸術資料館	
23		源氏物語帚木図屏風		六曲一隻	紙本金地着色	桃山時代 17世紀	個人蔵	前期
24		道具画帖（土佐派絵画資料）　第三紙	土佐光吉（1539-1613）	一枚	紙本墨画 一部淡彩	桃山時代 慶長14年(1609)	京都市立芸術大学 芸術資料館	前期
25		源氏物語夕霧図屏風		六曲一隻	紙本金地着色	江戸時代 17世紀	九州国立博物館	前期
26		源氏物語図屏風		六曲一双	紙本金地着色	江戸時代 17世紀	個人蔵	
27		物語図屏風		六曲一双	紙本金地着色	江戸時代 18世紀	個人蔵	後期
28		源氏物語　若紫・紅葉賀図	渡辺広輝（1778-1838）	対幅	絹本墨画淡彩	江戸時代 19世紀	香雪美術館	
29		源氏物語花宴図	守住貫魚（1809-92）	一幅	絹本着色	江戸～明治時代 19世紀	香雪美術館	
30		源氏物語　花宴・須磨図	岩瀬広隆（1808-77）	対幅	絹本着色	江戸時代 19世紀	個人蔵	
31		源氏物語かるた		1組・108枚	紙本木版着色	江戸時代 19世紀	鶴見大学図書館	
32		色絵源氏物語蓬生図香合	尾形乾山（1663-1743）	一合	陶器	江戸時代 18世紀	個人蔵	
33		船形爛鍋		一口	鉄製	江戸時代 18世紀	香雪美術館	
四　本朝画事と村山コレクション								
34		本朝画事　住吉広賢訂正本		二枚	紙本木版墨刷	江戸～明治時代 19世紀	香雪美術館	
35	◎	病草紙　小法師の幻覚をみる男		一幅	紙本淡彩	平安～鎌倉時代 12世紀	香雪美術館	後期
36	◎	稚児観音縁起絵巻		一巻	紙本着色	鎌倉～南北朝時代 14世紀	香雪美術館	前・後期で巻替
37		源氏物語藤裏葉図		対幅	紙本着色	江戸時代 17世紀	香雪美術館	
五　光信以前の土佐派								
38	◎	十王図		四幅（十幅のうち）	絹本着色	室町時代 15世紀	京都・二尊院	前期：秦広王、泰山王 後期：初江王、閻魔王
39		実隆公記（謄写本）長享三年正月～六月/七月～十二月	原本 三条西実隆（1455-1537）	二冊	紙本墨書		東京大学 史料編纂所	
40	○	仏涅槃図	土佐行広（生没年不詳）	一幅	絹本着色	室町時代 宝徳3年(1451)頃	京都・興聖寺	前期
41		阿弥陀二十五菩薩来迎図		一幅	絹本着色	室町時代 15世紀	香雪美術館	後期

『源氏物語』五十四帖のあらすじ

第一帖
桐壺
源氏｜1〜12歳

桐壺帝と桐壺更衣との間に光源氏誕生。母の死を経て、光源氏は父帝が新たに迎えた藤壺女御に憧れを抱く。

No.18

※No.は出品される作品の番号

第二帖
帚木
源氏｜17歳

頭中将らの女性論（雨夜の品定め）に刺激を受けた光源氏は、紀伊守邸で空蟬と一夜をともにする。

No.9、18、20、22、23、26

第三帖
空蟬
源氏｜17歳

空蟬への想いを募らせる光源氏。再び紀伊守邸を訪れ、空蟬とその娘・軒端荻の姿を目にする。

No.9、18、19-1、27

第四帖
夕顔
源氏｜17歳

夕顔の美しい民家に暮らす女性（夕顔）と契るも彼女は不慮の死を遂げる。夕顔は頭中将の恋人で、娘（玉鬘）もいた。

No.18

第五帖
若紫
源氏｜18歳

藤壺を懐妊させてしまい、距離をおかれる光源氏。藤壺に似た少女（紫上）と出会い、養育することに。

No.18、28

第六帖
末摘花
源氏｜18〜19歳

頭中将と競って末摘花と夜を過ごすが、のちに彼女が醜女であることに気づき落胆する。

No.9、18、20

第七帖
紅葉賀
源氏｜18〜19歳

紅葉賀の試楽で、光源氏は頭中将と青海波を披露する。光源氏の姿を見て罪の意識に苛まれる藤壺。

No.9、18、22、28

第八帖
花宴
源氏｜20歳

朧月夜に出会った女性（朧月夜）と扇を交わす光源氏。のちに、東宮への入内を控えた右大臣の姫であるとわかる。

No.9、18、29、30

第九帖
葵
源氏｜22歳

六条御息所と正妻・葵上による騒動（車争い）。御息所の生霊に悩まされ、葵上は夕霧出産後に急逝。

No.18

第十帖
賢木
源氏｜23〜25歳

伊勢へ下る六条御息所との別れ。光源氏の兄・朱雀帝寵愛の朧月夜と逢瀬を重ね、ある晩右大臣に見つかってしまう。

No.17、18

第十一帖
花散里
源氏｜25歳

琴の音に惹かれてかつての女性を訪ねるも拒まれた光源氏を、慎ましやかな花散里は親身にもてなす。

No.18

第十二帖
須磨
源氏｜26〜27歳

朧月夜との不祥事がもとで無冠となり、紫上と離れ須磨へ下向。侘びしく暮らす光源氏を明石入道は娘婿にと願う。

No.18、19-2、30

第十三帖
明石
源氏｜27〜28歳

明石君に通うちち、彼女は光源氏の子を宿す。その頃、京から赦免の文が届き、光源氏は帰京することに。

No.17、18

第十四帖
澪標
源氏｜28〜29歳

藤壺の産んだ皇子（冷泉帝）が即位。帰京後、住吉詣に訪れた光源氏を偶然目にした明石君は、身分の差を思い知る。

No.18、27

第十五帖
蓬生
源氏｜28〜29歳

荒廃した邸で光源氏を待ち続けた末摘花。その一途さに心打たれた光源氏は終生の庇護を約束する。

No.8、18、19-1、21、32

第十六帖
関屋
源氏｜29歳

夫の赴任により東国にいた空蟬の帰京の一行に、逢坂関で偶然出会う。

No.6、18、21、26

第十七帖
絵合
源氏｜31歳

絵を好む冷泉帝の寵愛を競って、御前で梅壺対弘徽殿の絵合が開催された。

No.17、18、19-1、20、21、27

第十八帖
松風
源氏｜31歳

大堰に移り住んだ明石君を訪れた光源氏は、娘と対面。その将来を思い、養育を紫上に依頼する。

No.18

第十九帖
薄雲
源氏｜31〜32歳

明石姫君は光源氏の邸へと引き取られ、紫上に大切に育てられる。

No.6、18

第二十帖
朝顔
源氏｜32歳

光源氏と朝顔君との関係に悩む紫上を宥めるため、ある雪の日、光源氏は過去の女性たちについて語る。

No.9

第二十一帖
少女
源氏｜33〜35歳

夕霧と雲居雁は思いを寄せ合っていたが、娘を東宮妃にと目論む内大臣に引き離される。

No.26

第二十二帖
玉鬘
源氏｜35歳

夕顔の遺児・玉鬘は偶然光源氏と巡り会う。光源氏は花散里を後見として玉鬘を邸へ迎え入れる。

No.20、21

第二十三帖
初音
源氏｜36歳

正月、紫上から順に女君たちを訪う光源氏。明石君から届いた明石姫君への贈り物に、娘と離れた彼女を哀れむ。

No.9、21、27

第二十四帖
胡蝶
源氏｜36歳

盛大な宴が催される光源氏の邸では、玉鬘への求婚者が後を絶たない。光源氏からも恋情を訴えられ、戸惑う玉鬘。

No.8、21、26

第二十五帖
蛍
源氏｜36歳

兵部卿宮は、光源氏が放った蛍に照らしだされた玉鬘の美しさに心を奪われる。

第二十六帖
常夏
源氏｜36歳

夕霧らと釣殿で涼む光源氏。内大臣が引き取った近江君の悪評が話題にのぼる。

第二十七帖
篝火
源氏｜36歳

光源氏に心をひらいていく玉鬘。光源氏は玉鬘と琴を枕に寄り添い、篝火にたとえて歌をよむ。

No.6

第二十八帖
野分
源氏｜36歳

野分（台風）の見舞いの最中、夕霧は紫上をはじめ女君たちの美しさに衝撃を受ける。

No.6、26

第二十九帖
行幸
源氏｜36〜37歳

大原野へ行幸する冷泉帝に見惚れる玉鬘。光源氏は玉鬘に宮中への出仕を提案する。

第三十帖
藤袴
源氏｜37歳

出仕間近の玉鬘へ藤袴を手に求愛する夕霧。求愛の歌が届くなか、玉鬘は蛍兵部卿宮にのみ返歌する。

第三十一帖
真木柱
源氏｜37〜38歳

玉鬘を強引に得た髭黒大将。心を病んだ正妻は、娘・真木柱たちとともに実家に引き取られてしまう。

第三十二帖
梅枝
源氏｜39歳

明石姫君の入内が決まり、光源氏は薫物合を開催。蛍兵部卿宮が判者を務める。

No.9、19-1、19-2

第三十三帖
藤裏葉
源氏｜39歳

夕霧と雲居雁の結婚が認められる。光源氏は自邸に冷泉帝・朱雀院を迎え鵜飼を見せるなど厚くもてなす。

No.37

第三十四帖
若菜上
源氏｜39〜41歳

朱雀院が娘・女三宮を光源氏に降嫁させた。蹴鞠の最中に彼女の姿を目にした柏木は思いを募らせる。

No.26、27

第三十五帖
若菜下
源氏｜41〜47歳

女三宮、紫上らによる女楽を催すが、紫上が発病。光源氏が看病で不在の間に、柏木は女三宮と通じる。

第三十六帖
柏木
源氏｜48歳

女三宮は薫を出産後、罪の重さに出家。発病した柏木は、夕霧に正妻・落葉宮の後見を託し、死去。

第三十七帖
横笛
源氏｜49歳

夕霧は落葉宮の母から柏木の横笛を贈られるが、夢のなかで柏木に、笛は薫に伝えてほしいと告げられる。

第三十八帖
鈴虫
源氏｜50歳

女三宮の庭に鈴虫を放つ光源氏。十五夜の夜、女三宮のもとにいたところ、冷泉院の詩歌の宴に呼び出される。

第三十九帖
夕霧
源氏｜50歳

落葉宮の母が送った、娘と夕霧との仲を問う文を雲居雁が奪ってしまう。怒った雲居雁は実家へ帰ってしまう。

No.20、25

第四十帖
御法
源氏｜51歳

死を見据えた紫上の法華経供養に人々が集う。夏、孫・匂宮に邸を託し、その秋、紫上は不帰の人となる。

No.6

第四十一帖
幻
源氏｜52歳

引きこもり、出家の準備を進める光源氏。御仏名の日、久しぶりに姿を見せた彼はひときわ美しく、居合わせたものは涙した。

第四十二帖
匂宮
薫｜14〜20歳

光源氏亡き後、薫と匂宮が注目される。養女の良縁を願う夕霧は正月の賭弓の還饗（宴席）に二人を招く。

第四十三帖
紅梅
薫｜24歳

按察大納言は娘を匂宮と縁付けようと紅梅の枝に託して意中を訴える。

No.9

第四十四帖
竹河
薫｜14〜23歳

玉鬘と髭黒大将との間に生まれた二人の姫は、多くの求婚者があるなか、大君は冷泉院、中の君は今上帝に仕えることに。

第四十五帖
橋姫
薫｜20〜22歳

宇治で仏道に励む八宮を慕い、通う薫。三年後、月下で八宮の二人の娘を垣間見、大君に惹かれる。

第四十六帖
椎本
薫｜23〜24歳

八宮は姫たちの後見を薫に託し他界。薫は大君、匂宮は中の君を慕うが二人は取り合わない。

第四十七帖
総角
薫｜24歳

中の君と匂宮のために薫が紅葉狩を企画。やがて匂宮に夕霧の娘との縁談がもちあがり、憂えた大君は死去。

No.8

第四十八帖
早蕨
薫｜25歳

ひとり寂しく暮す中の君を匂宮は京の邸に呼び寄せる。

No.19-2

第四十九帖
宿木
薫｜25〜26歳

中の君と薫の接触に危機感をもつ匂宮。中の君は薫を避けるため、大君に似た異母妹・浮舟の存在を漏らす。

第五十帖
東屋
薫｜26歳

中の君は薫と浮舟を縁付けようとするが、匂宮が言いよる。薫は彼女を宇治へ匿うが、教養のない浮舟の扱いに悩む。

第五十一帖
浮舟
薫｜27歳

情熱的に迫る匂宮に惹かれる浮舟。宇治川対岸の小島に渡り時を過ごす。苦悩の末、浮舟は入水を決意。

No.9

第五十二帖
蜻蛉
薫｜27歳

浮舟の失踪による衝撃で匂宮は病に。薫も追善供養を営む。蜻蛉を眺め宇治の姫君を追慕する。

第五十三帖
手習
薫｜27〜28歳

横川の僧都に救われた浮舟は、死に損ないを悔やみ手習に没頭。やがて僧都に願って出家してしまう。

No.6

第五十四帖
夢浮橋
薫｜28歳

浮舟の出家を聞き落涙する薫に僧都も後悔。薫からの手紙を、浮舟は悩みつつも拒絶する。

No.6